シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第32回

中部森林管理局総務課
井上（いのうえ） 日呂登（ひろと）

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

「クリスマスツリー」

戦中及び戦後復興期の乱伐を受けて、昭和三十年頃は国土の荒廃が強く憂慮されていた時代でした。こうした背景から、昭和二十九年より国土緑化推進委員会などによって森林資源の浪費につながりかねない門松とクリスマスツリーの自粛運動が行われていました。

長野営林局ニュース　第212号　昭和32年11月21日

門松とクリスマス・ツリーの自粛運動に協力を！

門松やクリスマス・ツリーは急速に大成次の通り。

門松とクリスマス・ツリーの自粛運動について

昭和32年の自粛の呼び掛け

昭和37年　浅間山における
クリスマスツリー盗伐防止パトロール

その一方でクリスマスツリー用木のニーズは存続し、若齢木の盗伐が国有林でも続発、昭和三十年代後半のシーズン前には首都圏からアプローチしやすい浅間山周辺で盗伐防止のパトロールが行われる事態にもなっていました。

昭和五十九年　ツリー販売の宣伝看板
（現在の東信森林管理署）

しかし時代は移り、戦後に植栽した造林木が成長してきた昭和五十年代後半から平成初期にかけては、各営林署での収入を上げるため、ウラジロモミ類などをクリスマスツリーとして販売する試みが行われました。

現在でも一部の市町村で正月用門松の代替品として門松カードが配布されていますが、これは門松とクリスマスツリーを自粛していた時代の名残でもあります。

平成４年　名古屋港に設置されたツリー
（現在の飛騨森林管理署が販売）

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。

これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むか～しの写真を紹介するサイトです。

当サイトへは、コードを読み込んでください。

モノクロ